

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577300308		
法人名	社会福祉法人平生町社会福祉協議会		
事業所名	ひらお・みんなの家		
所在地	山口県熊毛郡平生町大字平生村618-2		
自己評価作成日	平成29年10月25日	評価結果市町受理日	平成30年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、お一人おひとりのペースを大切に過ごして頂いています。日中は陽当たりの良い広々としたリビングにて皆様と一緒に過ごされています。会話を楽しまれたり、色々なレクリエーションや脳トレ(計算ドリル、漢字ドリル、音読、数字並べ等)、様々な体操にも取り組んでおられます。お食事は朝食、夕食、日曜日の昼食はリビング内の台所にてお作りしています。ご利用者も食事やおやつ作り等お出来になられることは、一緒に行っています。その他にも季節の行事や外出支援も大切にしており、季節感等を味わって頂いています。センター方式のシートを活用しお客様の思いや、今お出来になられることの把握に努め、介護計画に反映しケアに取り組んでいます。夜間は夜勤者、宿直者の2人体制で緊急時の対応が整備されており、お客様、ご家族、職員の安心感に繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議での家族の意見から、地域の小中学校へ働きかけて小中学生の事業所への来訪につなげておられ、一緒にレクリエーションを楽しんで利用者や若い世代の交流を図られている、法人内の就労支援事業所やデイサービス事業所の利用者や日常的に交流できるよう取り組んでおられます。職員はセンター方式のシートを活用して利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めておられ、馴染みの食堂で利用者の状態に合わせた形状の食事を提供してもらって外食を楽しまれたり、菓子工場の見学や家族と一緒にリンゴ狩りや火花見物をされるなど、地域や家族の協力を得られて利用者の喜びにつなげる支援をしておられます。管理者や職員は認知症の理解を深める研修をとおして、事業所の理念について話し合っておられ、利用者の自己決定や出来ることを大切にされ、地域の中で喜びや幸せを感じられるようなケアに取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示している。ミーティング時等に、実際のケアの状況と照らし合わせながら、実践出来ているか話し合い共有を図っている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、管理者や職員は、月1回のミーティング・カンファレンスや年1回の認知症研修で話し合い、理念を共有して日頃の言葉づかいなどを振り返り、利用者の自己決定を大切に、喜びや幸せを感じられるようなケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩、ドライブ、イベント等に出かけている。また毎年行われている十七夜祭りでは、ご家族と一緒に参加し交流を深められるよう支援している。ボランティアの来訪等も増えてきている。	地域の文化祭や祭りに出かけ、十七夜祭りには家族と一緒に花火見物をして地域の人と交流している。ボランティア(フラダンス、大正琴、バイオリン演奏、歌、南京玉すだれなど)の来訪があり、法人併設のデイサービス利用者や就労支援施設の人たちと一緒に交流している。大学生の介護体験実習を受け入れている。小中学生の来訪があり、一緒にレクリエーションを楽しんでいる。散歩時や買い物時に地域の人と挨拶を交わすなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護についての悩みを話し合える場を設けるように努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価・外部評価の結果については回覧やミーティングにて理解し出来ることから改善している。	自己評価は、管理者が職員に評価の意義について説明し、前年度の外部評価結果を回覧して、ミーティング・カンファレンスで意見を聞いたり、個別に意見を聞いて、管理者がまとめていく。職員の理解に差があることから、認知症への理解を深める研修を実施し、日頃のケアを振り返り、旬の食材を使った食事づくりなど改善に取り組んでいるが、全職員が評価の意義を十分に理解し、活用しているとはいえない。	・全職員の評価の意義の理解と活用

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。事業報告、ご利用者の様子、行事、日々の取り組み、火災訓練、防災訓練等話し合いが行われている。そこで出た意見はサービスに活かされるよう取り組んでいる。	2ヶ月に1回開催し、写真を使った利用者の状況や行事報告をし、行事予定、事故報告、外部評価結果報告、火災避難訓練について話し合い、意見交換をしている。小中学生との交流や、法人の併設施設の利用者との交流に取り組んでいるなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。地域メンバーの拡大について検討しているが実践に至っていない。	・地域メンバーの拡大の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談しやすい連携体制が構築されており、サービスの質の向上に取り組んでいる。	町担当者とは、運営推進会議の他、電話やファックス、窓口へ出向いて、利用者の状況報告や相談をして助言を得ているなど、日頃から協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議や地域ケア会議などで相談や情報交換をして助言を得ているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備している。職員全員、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関や居室とも日中は鍵をかけておらず、自由に出入りできる環境になっている。	マニュアルがあり、年1回研修を行って職員は身体拘束について理解している。玄関には施錠せず、利用者が外に出たいときは職員が一緒に出かけ、散歩をするなど気分転換をしている。スピーチロックについて職員同士で注意し合っている。気になるころがあったときは管理者や主任が指導したり、ミーティング・カンファレンスでマニュアルを基に話し合っ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のないケアに関心を持ち、細心の注意を払いながら防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する知識を深めて行くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし理解・納得をして頂いている。家族の不安や疑問点には、常に相談しやすい環境に努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口・担当者・外部機関を明示し苦情処置の手続きを明確に定めている。第3者委員を設置している。	相談や苦情の受付体制や第三者委員、処理手続きを定め、契約時に利用者や家族に説明している。運営推進会議参加時や介護計画作成、更新時、面会時、敬老会などの行事参加時、電話などで、家族から意見や要望を聞いている。年4回家族あてに利用者の生活状況を写真で伝え、面会時に日頃の様子を伝えているなど、家族が意見を出しやすいように工夫している。意見や要望は連絡ノートや介護記録に記録して職員間で共有している。小中学生との交流の機会を設けたり、本人が昔働いていた食堂での外食を実現するなど、家族の意見や要望を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや年2回個人面談を実施している。また普段の業務の中でも、なるべく職員の意見や提案を聞く場を設け、その意見が反映出来るよう努めている。	月1回のミーティング・カンファレンスや年2回の個人面接で意見や要望を聞く機会を設けている他、管理者や主任が日常の業務の中で聞いている。個人面接ではストレスチェック結果を活用して職員一人ひとりの思いを聞いている。利用者が畑仕事を続けられるように畑スペースを確保したり、施設内の段差をなくすなど、職員の意見を運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入している。評価結果を個人に伝え、各自が向上心を持って働けるような環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修やOJTを実施している。その他にも研修を実施している。外部研修にも参加している。	外部研修は、職員に情報を伝え、ケアマネ情報交換会や実践者研修など、希望や段階に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は資料を閲覧できるようにし、内部研修で復伝して職員間で共有している。法人で新人研修や事業報告会、リスクマネジメント、身体拘束、法令順守などの研修を行っている。内部研修は職員が講師を勤め、年6回、認知症の理解や感染症、排せつ介助などについて実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご本人やご家族のお気持ちを聞き、安心して生活出来るよう配慮している。また、入所前にショートステイも利用して頂きながら徐々に馴染んで頂けるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご本人やご家族の意見を聞き、安心して生活出来るよう配慮している。また、事業所の見学やショートステイも利用して頂いている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、ご本人やご家族と話し合いの場を設けている。ご家族の意向を聞き、その情報を職員間で共有し周知徹底するよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや片付け、洗濯干し、洗濯たたみ、掃除、散歩、買い物等、日々を共に暮らしながら喜怒哀楽を共有し、ご本人から学んだり支え合う関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向を汲み取りながら、ご家族へその思いを伝えている。職員と一緒に課題にも取り組むようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の友人や親戚が訪ねて来られた場合には、その時間を大切にし関係が途切れないように支援に努めている。馴染みの美容院等に行かれている。一時帰宅や外泊をされている。親戚と電話でお話をされている。	家族の面会や親戚の人、友人、知人、地域の自治会長や民生委員などの来訪がある他、手紙や電話での交流を支援している。馴染みの地域の祭りに参加し家族と一緒に花火見物をしたり、昔働いていた食堂の協力を得て外食するなどの支援をしている。家族の協力を得て、正月の一時帰宅、外泊、外食、法事への参加、馴染みの美容院の利用、ドライブなど、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士のトラブルがないよう上手に間に入り楽しい場所となるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他機関との連携を深め、相談があれば窓口を紹介している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話や様子からも思いや意向を把握し、センター方式のシートを活用している。ミーティング、カンファレンス等で職員間で共有しながら本人本位に検討している。	入居時にセンター方式のシートを活用してアセスメントしている他、日々の関わりの中で本人の言葉や表情を介護記録に記録し、申し送りで共有している。利用者を担当する職員を中心にミーティング・カンファレンスで検討し、「私の姿と気持ちシート」「私の心と体の全体的な関連シート」などを3ヶ月ごとに見直して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を得るなどして、職員間で本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴や意向に沿うように介護計画を立てている。また、職員の対応を統一出来るように情報の共有に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりのケースに様子や心身状態等記述し、その情報を職員間で把握し共有している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成は、日々の気づき、身体の変化等についてミーティング、カンファレンスを行い、その意見を計画に反映させている。介護計画は3ヶ月に1回モニタリングを行い見直しをしている。状況が変わった時はその都度見直している。	計画作成担当者と利用者を担当する職員が中心となってミーティング・カンファレンスで話し合い、本人や家族の思いや意向、かかりつけ医や看護師の意見を参考にして介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを行い、計画の見直しをしている。利用者の状態や要望に変化があるときにはその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケースに、各々のバイタル、体調の変化、食事量、排泄、水分量など細かく記述している。引き継ぎ、ミーティング、カンファレンスの時に情報の共有を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たに生じたケースに対してミーティングを行っている。なるべく柔軟な支援が出来るように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にはなるべく参加して頂くように努めている。社会との関わりを持って頂き、豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者は、各々にかかりつけ医を持っている。精神内科医による往診を2週間に1回行い、健康観察や健康管理にあたっている。	本人や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。2週間に1回、精神内科医の訪問診療がある。他科は家族の協力を得て受診の支援をしている。受診結果は家族に電話や面会時に報告し、職員間では介護記録や連絡ノートで共有している。看護師がバイタルチェックなどの健康管理を行っている。緊急時や夜間は管理者を中心に対応し、かかりつけ医と連携して適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	引き継ぎ時に、その日の状況や体調の変化・注意点等、全職員に伝え周知徹底に努めている。体調の変化・異常があれば早目にご家族へ連絡し、受診に繋げるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、情報交換や相談に極力努めるようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に方針を説明している。かかりつけ医の意見や本人・家族の意向を尊重し、その都度話し合いを行い対処している。	契約時に重度化した場合に事業所でできる対応について移設を含めて家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族や主治医、看護師等と話し合い、方針を決めて職員間で共有して支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	各マニュアルが整備され、職員で共有している。ヒヤリハットや事故事例はミーティングや朝礼で話し合い、事故防止等を検討している。	事例が生じた場合は、その日の職員で話し合い、事故報告書に発生状況や対応策を記録し、管理者と主任が意見を加えて回覧したうえで、カンファレンスで再検討して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。看護師の指導で吸引について学んだり、状況に応じて訓練を行っているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災訓練(日中・夜間を想定)を実施し法人内の協力体制は整っている。その他にも年1回防災訓練(地震を想定)を実施している。	1回は消防署、1回は消防保守点検業者の協力を得て、年2回、昼夜間を想定した消火、通報、避難訓練を利用者も参加して実施している他、年1回地震を想定した避難訓練、避難場所の確認をして、職員は利用者が避難できる方法を身につけている。運営推進会議で話し合ったり、消防団と避難場所等の検討をしているが、訓練に地域の人参加はなく、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者を人生の先輩と敬い、丁寧な言葉遣いを心掛け、ご利用者の誇りやプライバシーを損ねるような声掛けはしないように配慮している。法令遵守や倫理規定のチェックシートも行っている。	認知症研修や法令順守の研修で学び、利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる対応があれば管理者や主任がその都度指導している。職員は年1回法令遵守や倫理規定のチェックシートを提出し、文書管理に配慮して守秘義務も徹底するよう取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、その都度皆様がどのようにされたいか意向を伺い、自己決定が出来るよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのようにされたいか、自己決定を大切に、お一人おひとりの意向になるべく添うように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、洋服選びはご本人に任せている。化粧水で肌を整えられている。美容院を希望される時は、その旨をご家族へお伝えし、馴染みの場所で身だしなみやお洒落ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は起床時間に合わせて個別に対応している。食事は季節感を大切にしている。調理や片付け等、出来ることは職員と一緒にして頂いている。夕食は職員と一緒に食べている。	朝食と夕食、日曜日の昼食は事業所で調理している。利用者と職員と一緒に買った食材や菜園で収穫した旬の野菜(ミニトマト、キュウリ、ナスなど)、家族からの差し入れなどを使い、利用者の状態に合わせた形状の工夫をして調理している。利用者は牛蒡のさがきや落の皮むき、もやしの根とりなどの下ごしらえ、味付け、盛付け、テーブル拭き、配膳、下膳、食器洗い、盆拭きなど出来ることを職員と一緒にしている。朝食は一人ひとりの起床時間に合わせてご飯やパンなど好みに合わせたものを提供している。日曜以外の昼食は法人の配食を利用しており、利用者の好みを伝え、献立に活かしている。おせち料理や恵方巻、節句のお寿司、花見弁当、年越しそばなど季節ごとの行事食や、誕生日のケーキ、柏餅や桜餅、ホットケーキなどのおやつづくり、干しシイタケや干し柿、梅干し、味噌などの保存食づくり、馴染みの店での外食など、食事が楽しみなものになるよう支援している。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を毎食後、記述し、お一人おひとりの状態に配慮し、その情報を職員間で共有している。			
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人おひとりの口腔状態に合った声掛けをし、口腔ケアの支援に努めている。お口の体操も行っている。			
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人おひとりの排泄のリズムを記録し把握できるよう努めている。様子観察をしご負担にならない程度に早目に声掛けを行い、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	排泄記録を活用して、利用者一人ひとりのパターンを把握し、プライバシーに配慮した言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの体調、便意のリズムを把握できるよう情報の共有に努めている。便秘時には、食物繊維の多い物や乳製品を多く摂る等工夫をしている。主治医にその都度相談もしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、お一人おひとりの意向を大切に、お一人ずつ入浴して頂いている。体調やその時の状況によっては、午後からの入浴の支援もしている。その他にも、シャワー浴、清拭、洗髪、足浴等にもその都度対応している。	日曜日を除く毎日、9時30分から12時まで、週3回は入浴できるよう支援している。希望があればいつでも入浴でき、利用者の状態に合わせてシャワー浴や清拭、足浴などを行い、入浴したくない人には順番を変えたり、タイミングに合わせた言葉かけを行うなど、個々に応じた入浴の支援をしている。ゆず湯や菖蒲湯など季節を楽しんだり、歌を歌う、職員との会話を楽しむなど、くつろいだ入浴となるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を大切に、午睡される方は休んで頂いている。就寝時間も今までの生活リズムを大切に、安心して気持ちよく眠れるような環境作りに努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、薬の目的や副作用について把握し職員間で共有している。必要な情報は主治医にフィードバックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を把握し、今出来ることに着眼している。お一人おひとりに合わせた役割、楽しみを見つけだし、自信を取り戻せるよう努めている。(洗濯物を干す、テーブル拭き、食事作り、食器洗い等)	節分の豆まき、ひな祭り、端午の節句、七夕、敬老会、運動会、十五夜のお月見、ボランティアの来訪があるクリスマス会、歌謡ショー、ふれあいコンサート、誕生会、テレビやDVDの視聴、新聞や本を読む、生け花、折り紙、貼り絵、ぬり絵、トランプ、カルタ、漢字ドリル、新聞紙のゴミ箱づくり、ラジオ体操、口腔体操、健康体操、風船バレー、ボーリング、歌を歌う、食事の準備や片付け、保存食づくり、おやつづくり、モップかけ、草取り、花壇の水やり、野菜づくりと収穫、洗濯物干し、洗濯物たたみや自室への収納、寝具カバー替、アイロンかけ、雑巾づくりなどの裁縫など、一人ひとりのできることを活かして、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物、花火大会、紅葉狩り、外食、イベントへの参加等、外出支援に努めている。毎年開催される花火大会は、ご家族と一緒に鑑賞され交流の場となっている。	季節の花見(桜、バラ、あじさい、紅葉)、ドライブ、初詣、地域の文化祭や祭り、菓子工場の見学、家族とのリンゴ狩り、昔働いていた食堂での外食、スーパーマーケットでの買い物、近隣の散歩、テラスでの日光浴、家族の協力を得ての正月の一時帰宅や外泊、外食、法事への参加、馴染みの美容院の利用、ドライブなど、家族や地域の人々と協力しながら、日常的に外出できるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金を使うことはない為、ご家族が管理している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があれば、ご本人とお話して頂くこともある。手紙のやりとりは自由に書いて頂くよう支援している。ご本人に贈り物が届くとご本人からお礼の電話を掛けて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽当たりの良いリビングには、ソファが置かれ、お客様同士で団らんされている。天気の良い日にはテラスに移動し季節感を味わいながら、おやつを召し上がって頂くこともある。リビング、廊下、脱衣場等には床暖房が設置してある。	リビングは大きな窓から光が差し込んで明るく、広々としている。リビングから続くテラスには自由に入出りができ、開放感がある。壁面には干支や季節の飾り、写真などを飾り、対面型キッチンに面して食卓や椅子、テレビの前には大きなソファを配置して、調理の音やご飯の炊ける匂いが漂う家庭的な雰囲気の中でくつろげる空間をつくっている。廊下は明るくて広く、すべてに手すりを設置している。安全のため廊下の先の段差をなくす工夫をしている。床暖房で快適な室温を保ち、湿度や換気にも配慮して利用者が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の思いを大切にし、お一人おひとり自由に共有の空間や部屋等、行き来できるよう努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた物を持参して頂きご本人が居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。(テレビ、ダンス、キャビネット、椅子、化粧品等)	テレビやテレビ台、整理ダンス、衣装ケース、ソファ、置時計、家族の手づくりのティッシュケース、化粧品など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真や誕生祝の色紙、絵手紙、造花などを飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今出来ることに着眼し、なるべくその力を活かせるよう自立した生活を支援している。洗濯物干し、洗濯物たたみ、部屋の掃除、食器洗い等、職員と一緒にやっている。		

2. 目標達成計画

事業所名 ひらお・みんなの家

作成日：平成 30 年 3 月 28 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	改善に取り組んでいるが、全職員が評価の意義を十分に理解し、活用することができていない。	全職員が評価の意義を理解し活用する。	全職員が自己評価に記入をし評価の意義を理解し活用する。	1年
2	35	状況に応じて訓練を行っているが、全職員が初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	定期的訓練、研修の実施。	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける為の訓練、研修を工夫し実施する。訓練、研修の回数を増やす。	1年
3	36	災害時に地域との協力体制を築くまでには至っていない。	地域との協力体制の構築。	運営推進会議等を通じて地域、消防団との協力体制が築けるよう努める。	2年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。